

SGK通信 SGK談話会

話 題 数学月間の話
提供者 数学活用分科会 片瀬 豊
日 時 H20.7.19(土) 12:30~14:00
場 所 横浜クルーズ・クルーズ スカイビル27F
Tel 045-450-2111
主 催 神奈川銀杏会・三士会

「数学月間の話」

日本数学協会が2005年(平成17年)5月、毎年7月22日~8月22日を数学月間とすることを提唱し、数学への共感・普及、数学と数学教育の意義を再確認する運動を展開していく事になった。

米国では、1986年レーガン宣言で始まったMathematics Awareness Month(MAM:毎年4月)がある。当初はWeekであったが、1999年Monthに進展した。

米国における各階層・各分野での数学力や学習意欲の低下が憂慮され、全国的な運動が展開されている。情報化時代を支え、社会・経済の進歩にも数学が益々重要である。数字への興味・理解・評価を高める必要がある。

米国では、毎年テーマが決められ、数学研究の先端や応用的に広く関心を持たれそうなトピックを選んで啓蒙運動がなされる。

昨今、我が国においても理数ばなれが叫ばれ、学生の数学力・計算力・論理思考力が懸念されている。社会と数学の親和力強化が求められる。

注)7月22日は $22/7=3.14\dots$ で π に近く、8月22日は $22/8=2.75\dots$ で e に近い。期間内の8月8日はバチバチで算盤の日でもある。数学系・非数学系や、理科系・文科系の区別は意味がない。数学と社会との結びつきに思いをさせ、数学への共感を想起する求心力となる数学月間(7/22~8/22)に、ご理解・ご協力をお願いする。